



2022年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年7月8日
東

上場会社名 株式会社メディア工房 上場取引所
 コード番号 3815 URL <http://www.mkb.ne.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長沢 一男
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 長沢 和宙 (TEL) 03-5549-1804
 四半期報告書提出予定日 2022年7月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年8月期第3四半期の連結業績(2021年9月1日~2022年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年8月期第3四半期	1,672	23.3	162	—	154	—	109	—
2021年8月期第3四半期	1,356	2.2	10	—	5	—	2	—

(注) 包括利益 2022年8月期第3四半期 109百万円(—%) 2021年8月期第3四半期 6百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年8月期第3四半期	10.85	—
2021年8月期第3四半期	0.29	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年8月期第3四半期	3,213	1,310	40.8
2021年8月期	3,119	1,200	38.5

(参考) 自己資本 2022年8月期第3四半期 1,310百万円 2021年8月期 1,200百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年8月期	—	0.00	—	—	—
2022年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年8月期の連結業績予想(2021年9月1日~2022年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,200	14.0	195	309.7	183	371.3	151	—	14.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2022年8月期の通期業績見通しは、各事業の見通しに基づき予測する数値となっております。各事業の進捗並びに業績に与える影響を精査の上、当該連結業績予想に変更が生じた際は、速やかに訂正・開示いたします。



※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年8月期3Q	11,300,000株	2021年8月期	11,300,000株
② 期末自己株式数	2022年8月期3Q	1,221,077株	2021年8月期	1,221,077株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年8月期3Q	10,078,923株	2021年8月期3Q	10,078,923株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載される業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提条件に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績のご利用に当たっては、添付資料「1. 経営成績・財務状態に関する分析」をご覧ください

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、一時は新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着きを見せ、経済正常化の流れが進みつつあったものの、オミクロン株の発生により様々な活動が再制限され、更にはロシアによるウクライナ侵攻をはじめとする地政学リスクの顕在化や世界的な原材料価格の高騰等が重なり、景況感は悪化いたしました。

このような情勢の中、当社グループは、引き続きデジタルコンテンツ事業における既存コンテンツの運用強化及びSNS事業の推進に注力してまいりました。SNS事業は先行投資段階のため、当第3四半期連結累計期間における業績への寄与はありませんが、既存事業（デジタルコンテンツ事業及びOne to One事業）が、先行投資を補って上回る収益となり、前年同期比で営業利益が増加しております。各事業における取組等については、セグメントごとの経営成績をご参照ください。

また、当第3四半期連結累計期間においては、ソフトウェアの内容を精査し、SNS事業におけるソーシャルプラットフォームのうち、BtoB向けにサービス提供しているソフトウェアについて、当初計画と収益性に大幅に乖離があることから減損処理を行いました。これにより特別損失31百万円を計上しております。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,672百万円(前年同期比23.3%増)、営業利益162百万円(前年同期は営業利益10百万円)、経常利益154百万円(前年同期は経常利益5百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益109百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益2百万円)となりました。

なお、営業利益が前年同期比で大幅に増加しておりますが、これは、売上増に伴う利益増の他、前連結会計年度において、不採算事業から撤退したこと並びにXR事業（旧セグメント名称：XR/SNS事業）に係る資産について減損損失を計上したことと当連結会計年度における償却費負担が大幅に軽減したことによるものです。

セグメントごとの経営成績は、以下のとおりであります。なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しております。そのため、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。詳細は、下記及び「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）セグメント情報」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

① デジタルコンテンツ事業

デジタルコンテンツ事業においては、自社Webサイト、ISP、各移動体通信事業者及びApple や Google 等のプラットフォーム向けに古い鑑定や女性に向けた記事コンテンツを企画・制作・配信する、1対N向けのサービスを行っております。ISP各社における古いコンテンツの配信縮小方針により、一部配信プラットフォームにおける収益は減少いたしました。当第3四半期会計期間にリリースした新規コンテンツがそれぞれ中規模ヒットした他、運用強化に注力した結果、携帯キャリア向けコンテンツを中心に、売上高及び利益が前年同期比で増加いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるデジタルコンテンツ事業の売上高は1,047百万円(前年同期比28.6%増)、営業利益417百万円(前年同期比56.4%増)となりました。

なお、営業利益が前年同期比で大幅に増加しておりますが、これは、売上増に伴う利益増の他、運用効率化によるものです。

② One to One 事業

One to One 事業においては、ユーザーと占い師をはじめとするキャストを電話等で直接結び付ける、双方向のやり取りを特徴とした1対1向けのサービスを行っており、サービスの内容は「占い」と「非占い」の二つに分類されております。当第3四半期連結累計期間においても、個別対応サービスへのニーズは引き続き高まっており、占いサービスが安定的に収益を伸ばしました。また、非占いサービスにおいても単月黒字を達成し、徐々に収益を伸ばしております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるOne to One 事業の売上高は611百万円(前年同期比15.3%増)、営業利益92百万円(前年同期比51.4%増)となりました。

なお、営業利益が前年同期比で大幅に増加しておりますが、これは、広告宣伝時期の見直しにより一時的に広告費を抑制したことによるものです。新規ユーザーの獲得においては広告は必要不可欠であるため、広告宣伝費については今後増加する見込みであります。

③ XR 事業

XR 事業においては、自社独自開発のリアルタイム実写立体動画撮影技術「SUPERTRACK」を活用した撮影サービス、コンテンツ制作の受託の他、他企業とのIPアライアンス等を推進しております。当第3四半期連結累計期間においては、受託案件の獲得に至らず営業損失を計上しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるXR事業の売上高は0百万円(前年同期は売上高0百万円)、営業損失9百万円(前年同期は営業損失44百万円)となりました。

④ SNS 事業

SNS 事業においては、ソーシャルプラットフォームの運営及びサービス企画を行っております。当第3四半期連結累計期間においては、新規SNSサービスとしてフォトグラメトリー技術による仮想共同空間を搭載した団体性マッチングアプリ「OneRoof」の開発を進めるほか、開発を予定するゴルフ関連SNSサービスとの相乗効果を図るべく、フランチャイジーとして会員制インドアゴルフ「Lounge Range」のフランチャイズ店舗設営を進めてまいりました。サービス品質の向上のため「OneRoof」のリリース時期を延期したことから、売上についてはBtoB向けに提供するソーシャルプラットフォームのシステム利用料のみを計上しております。また、利益面については、前年同期比で営業損失が拡大しておりますが、これは、主として、サービス開発費及びフランチャイズ店舗の設営費等が発生したことによるものであり、いずれも先行投資であります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるSNS事業の売上高は8百万円(前年同期比106.7%増)、営業損失104百万円(前年同期は営業損失15百万円)となりました。

なお、SNS事業で開発・運営するソーシャルプラットフォームは、ブラウザ版及びアプリ版(開発中)があり、更にブラウザ版においてはBtoB向けに提供することを目的としたものと自社サービスでの利用を目的とするもの(継続開発中)がありますが、BtoB向けに提供するソーシャルプラットフォームについては、当初計画と収益性に大幅に乖離があることから第3四半期連結会計期間末の帳簿価額31百万円の全額について減損処理を行い、特別損失を計上しております。

⑤ その他

当社グループは、2020年8月期から2021年8月期にかけて、事業の選択と集中のため、ゲームコンテンツ事業及びインバウンド・アウトバウンド事業から撤退しておりますが、一部については取引等を継続しており、2022年8月期において売上が発生しております。当第3四半期連結累計期間において発生したこれらの撤退事業に関連する取引等の売上については、一括して「その他」セグメントとして区分し、計上しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるその他の売上高は3百万円(前年同期比46.6%減)、営業損失6百万円(前年同期は営業損失39百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の当社グループの財政状況は以下のとおりです。

なお、資本の財源及び資金の流動性にかかる情報については、当第3四半期連結累計期間において、重要な変更等はございません。

(資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末と比較して93百万円増加し、3,213百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加193百万円、売掛金の減少66百万円及び無形固定資産の減少72百万円によるものです。

資産の内訳は、流動資産2,943百万円、有形固定資産26百万円、無形固定資産28百万円及び投資その他の資産214百万円となっております。

(負債の状況)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末と比較して16百万円減少し、1,902百万円となりました。

負債の内訳は、流動負債1,150百万円、固定負債752百万円となっております。

(純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末と比較して109百万円増加し、1,310百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加109百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、デジタルコンテンツ事業及びOne to One 事業を中心として安定的かつ長期的な収益を確保すると同時に、今後収益の拡大が見込めない事業分野からは撤退し、成長事業に積極的かつ継続的な投資を行うことで新たな収益の柱を育成し経営の多角化を推進いたします。

また、財務面に関しましては、これまで同様、資産の透明性を確保し、新規事業への挑戦を安定した内部留保によって下支えする健全な経営を行う考えであります。

なお、各事業別の見通し及び2022年8月期の通期業績見通しにつきましては、2021年10月8日の「2021年8月期決算短信」で公表しました通期業績予想から、以下の通り変更しております。詳細については2022年7月8日付で開示いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

・2021年10月8日公表予想（修正前）

売上高2,350百万円 営業利益90百万円 経常利益80百万円 親会社株主に帰属する当期純利益50百万円

・2022年10月8日公表予想（修正後）

売上高2,200百万円 営業利益195百万円 経常利益183百万円 親会社株主に帰属する当期純利益151百万円

これらの数値は、上記各事業の見通しに基づき予測する数値となっております。従って、新規事業の進捗に変更がある場合、利用ユーザー数が大幅に見込みを上回る若しくは下回る場合又は当社グループ事業に関連する法令が改正されあるいは情勢が変化した場合、変動する可能性があります。

また、新型コロナウイルスについては、いまだその感染拡大が続いており、当社事業に限らず今後の影響は不透明であると判断せざるを得ません。各事業の進捗並びに業績に与える影響を精査の上、当該連結業績予想に変更が生じた際は、速やかに訂正・開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,408,430	2,601,495
売掛金	362,235	295,787
商品	245	232
仕掛品	12,158	11,771
貯蔵品	335	328
その他	38,020	35,012
貸倒引当金	△1,353	△1,043
流動資産合計	2,820,071	2,943,585
固定資産		
有形固定資産	17,940	26,638
無形固定資産	100,963	28,300
投資その他の資産		
敷金及び保証金	101,410	93,100
その他	79,634	121,870
貸倒引当金	△235	△235
投資その他の資産合計	180,809	214,735
固定資産合計	299,712	269,674
資産合計	3,119,784	3,213,259
負債の部		
流動負債		
買掛金	64,881	57,054
1年内返済予定の長期借入金	928,982	899,648
未払費用	49,981	44,178
未払法人税等	15,938	30,186
未払消費税等	28,950	21,309
その他	108,485	97,783
流動負債合計	1,197,220	1,150,160
固定負債		
長期借入金	721,592	752,256
固定負債合計	721,592	752,256
負債合計	1,918,812	1,902,416

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	451,459	451,459
資本剰余金	422,578	422,578
利益剰余金	842,715	952,074
自己株式	△514,204	△514,204
株主資本合計	1,202,549	1,311,907
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△1,576	△1,064
その他の包括利益累計額合計	△1,576	△1,064
純資産合計	1,200,972	1,310,843
負債純資産合計	3,119,784	3,213,259

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年9月1日 至 2021年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)
売上高	1,356,301	1,672,170
売上原価	744,375	820,113
売上総利益	611,925	852,056
販売費及び一般管理費	601,478	689,453
営業利益	10,447	162,603
営業外収益		
受取利息	22	15
補助金収入	4,000	-
債務消滅益	-	1,683
その他	820	249
営業外収益合計	4,843	1,948
営業外費用		
支払利息	9,528	9,476
その他	616	972
営業外費用合計	10,145	10,449
経常利益	5,145	154,101
特別損失		
在外子会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩損	3,323	-
減損損失	-	31,192
特別損失合計	3,323	31,192
税金等調整前四半期純利益	1,821	122,909
法人税、住民税及び事業税	2,312	32,274
法人税等調整額	△3,391	△18,723
法人税等合計	△1,078	13,551
四半期純利益	2,900	109,358
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,900	109,358

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年9月1日 至 2021年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)
四半期純利益	2,900	109,358
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	4,094	512
その他の包括利益合計	4,094	512
四半期包括利益	6,994	109,870
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,994	109,870

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(「収益認識に関する会計基準」等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過措置に従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過措置に従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号2020年3月31日)第28-15項に定める経過措置に従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年9月1日 至 2021年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	デジタル コンテンツ 事業	One to One 事業	XR 事業	SNS 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	814,712	530,644	22	4,242	1,349,622	6,678	1,356,301	—	1,356,301
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	814,712	530,644	22	4,242	1,349,622	6,678	1,356,301	—	1,356,301
セグメント利益又は セグメント損失(△)	267,129	61,104	△44,653	△15,532	268,048	△39,909	228,138	△217,690	10,447

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゲーム事業、医療ツーリズム事業及び越境eコマース事業などの事業を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△217,690千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用217,690千円が含まれております。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	デジタル コンテンツ 事業	One to One 事業	XR 事業	SNS 事業	計				
売上高									
顧客との契約から 生じる収益	1,047,887	611,939	10	8,767	1,668,605	3,565	1,672,170	—	1,672,170
外部顧客への売上 高	1,047,887	611,939	10	8,767	1,668,605	3,565	1,672,170	—	1,672,170
セグメント間の 内部売上高又は振 替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,047,887	611,939	10	8,767	1,668,605	3,565	1,672,170	—	1,672,170
セグメント利益又は セグメント損失(△)	417,816	92,518	△9,994	△104,873	395,467	△6,732	388,735	△226,132	162,603

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゲーム事業、医療ツーリズム事業及び越境eコマース事業などの事業を含んでおります。
2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△226,132千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用226,132千円が含まれております。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、リアルタイム実写立体動画撮影技術を活用したサービスの企画・制作並びに多機能コミュニケーションプラットフォームの開発・運営及びサービス支援を「XR/SNS事業」として区分しておりましたが、各々の事業の戦略上の重要性が増したため第1四半期連結会計期間より「XR事業」及び「SNS事業」として区分する方法に変更しております。上記変更により、当社グループの報告セグメントを、「デジタルコンテンツ事業」「One to One事業」「XR事業」「SNS事業」の4セグメントとしております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「SNS事業」において、当初想定していた収益が見込めないため、一部の資産について減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において31,192千円であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。